

夏のクイズ 全30問

Q1. 夏の暑い日に、よく冷やして食べる、赤い果肉と黒い種が特徴の果物は？

- ① スイカ
- ② みかん
- ③ りんご

ヒント:縞模様の大きな緑色の皮が目印です。

答え:① スイカ

スイカは夏を代表する果物。塩をひとつりすると甘みが引き立つのも、昔ながらの楽しみ方です。

Q2. 暑い夏に、冷たいつゆにつけてつるりといただく、細くて白い麺は？

- ① そうめん
- ② うどん
- ③ ラーメン

ヒント:七夕にいただく地域もある、夏の定番です。

答え:① そうめん

そうめんは夏の食卓の定番。のどごしがよく、食欲が落ちる暑い日にもいただきやすい麺です。

Q3. 7月7日に、笹の葉へ願いごとを書いた短冊を飾る行事は？

- ① 七夕
- ② 節分
- ③ ひな祭り

ヒント:織姫と彦星が、年に一度会えるという言い伝えがあります。

答え:① 七夕

七夕は織姫と彦星の伝説にちなむ行事。短冊に願いを込めて笹に飾る風習が今も親しまれています。

Q4. 夏の夜空に大きな音とともに色とりどりの光が開く、夏祭りの楽しみは？

- ① 花火
- ② 雪
- ③ 紅葉

ヒント:「たまや〜」「かぎや〜」のかけ声でも知られます。

答え:① 花火 花火は夏の風物詩。江戸時代から続く打ち上げ花火は、川開きの行事とともに発展してきました。

Q5. 夏に「チリンチリン」と涼しげな音を鳴らす、軒先につるす道具は？

- ① 風鈴
- ② 太鼓
- ③ 鈴虫

ヒント:ガラスや鉄でできた、音で涼を感じる道具です。

答え:① 風鈴 風鈴は音で涼を感じる、日本ならではの夏の知恵。短冊が風に揺れて音を奏でます。

Q6. ご先祖様をお迎えして供養する、夏の仏教行事といえば？

- ① お盆
- ② お正月
- ③ お彼岸

ヒント:8月の中ごろに行う地域が多い行事です。

答え:① お盆

お盆はご先祖様の霊をお迎えして供養する行事。盆踊りや迎え火・送り火の風習が各地にあります。

Q7. 暑い日に道や庭へ水をまいて涼しくする、昔ながらの工夫を何という？

- ① 打ち水
- ② 水切り
- ③ 水鉄砲

ヒント:まいた水が蒸発するとき、まわりの熱を奪います。

答え:① 打ち水 打ち水は、水が蒸発するとき熱を奪う性質を利用した涼の知恵。朝夕に行うと効果的です。

Q8. 夏の暑さで体に熱がこもり、めまいや頭痛などを起こす症状を何という？

- ① 熱中症
- ② 風邪
- ③ 花粉症

ヒント:こまめな水分補給と休息が、何より大切です。

答え:① 熱中症

熱中症は高温多湿で体温調節がうまくいかず起こります。のどが渇く前の水分補給が予防の基本です。

Q9. 夏の朝に咲き、昼にはしぼんでしまう、つるを伸ばして育つ青や紫の花は？

- ① 朝顔
- ② ひまわり
- ③ 菊

ヒント:小学校で観察日記をつけた方も多い花です。

答え:① 朝顔 朝顔は夏の朝を彩る花。つるが支柱に巻きつき、夏休みの観察にもよく親しまれてきました。

Q10. 夏の木で「ミンミン」と鳴く昆虫といえば？

- ① セミ
- ② スズムシ
- ③ コオロギ

ヒント:土の中で長い年月を過ごしてから、地上に出てきます。

答え:① セミ セミは夏を告げる虫。長い幼虫期間を経て地上に出ると、短い夏を懸命に生きます。

Q11. 一年でいちばん昼が長く、夜が短くなる日を何という？

- ① 夏至
- ② 冬至
- ③ 春分

ヒント:6月の下旬ごろに訪れます。

答え:① 夏至 夏至は一年で最も昼が長い日。6月21日ごろにあたり、ここから少しずつ夜が長くなります。

Q12. うなぎを食べる習慣で知られる、夏の「土用の〇〇の日」。〇〇に入るのは？

- ① 丑(うし)
- ② 寅(とら)
- ③ 卯(う)

ヒント:十二支のひとつで、「う」のつく食べ物との語呂合わせもあります。

答え:① 丑(うし) 土用の丑の日にうなぎを食べる習慣が。夏バテ予防の縁起物として親しまれてきました。

Q13. 夏の午後に急に降り、短い時間でやむ激しい雨を何という？

- ① 夕立
- ② 梅雨
- ③ 時雨

ヒント:入道雲(積乱雲)が発達して降ることが多い雨です。

答え:① 夕立 夕立は夏の午後に多いにわか雨。発達した積乱雲によるもので、雷を伴うこともあります。

Q14. 梅雨が終わって夏らしくなることを「梅雨〇〇」という。〇〇に入るのは？

- ① 明け
- ② 入り
- ③ 戻り

ヒント:梅雨が「終わる」ことを表す言葉です。

答え:① 明け 梅雨明けは、長雨が終わって本格的な夏が訪れること。地域ごとに気象台が発表します。

Q15. 暑い夏に蚊を追い払うため、昔から使われてきた渦巻き型の道具は？

- ① 蚊取り線香
- ② ろうそく
- ③ お香

ヒント:火をつけると、煙とともに独特の香りが広がります。

答え:① 蚊取り線香

蚊取り線香は夏の必需品。除虫菊の成分を生かした渦巻き型で、長く煙を出す工夫がされています。

Q16. かつて多くの家庭で、夏の夜に蚊を防ぐため寝床につった網を何という？

- ① 蚊帳(かや)
- ② のれん
- ③ すだれ

ヒント:中で眠ると、蚊に刺されずに過ごせました。

答え:① 蚊帳(かや)

蚊帳は、寝床を網で覆って蚊を防ぐ昔の道具。涼しい風は通し、虫だけを防ぐ工夫がありました。

Q17. 窓辺につるして日ざしをやわらげ、風を通す、竹などで編んだ夏の道具は？

- ① すだれ
- ② カーテン
- ③ ふすま

ヒント:「よしず」と並ぶ、昔ながらの日よけです。

答え:① すだれ

すだれは竹やよしを編んだ日よけ。日光をさえぎりつつ風を通し、涼しさを生む先人の知恵です。

Q18. 暑い夏でも涼しく過ごすため、麻や綿で作られた昔ながらの夏の着物は？

- ① 浴衣(ゆかた)
- ② 振袖
- ③ 留袖

ヒント:夏祭りや盆踊りでよく着られます。

答え:① 浴衣(ゆかた)

浴衣は通気性のよい夏の着物。もとは湯上がりの装いでしたが、今では夏祭りの定番です。

Q19. 熱中症を防ぐため、のどが渇く前にこまめにとると良いものは？

- ① 水分(水やお茶など)
- ② 熱いお湯
- ③ 何もとらない

ヒント:汗で失われるものを、こまめに補うのが大切です。

答え:① 水分(水やお茶など)

熱中症予防はのどの渇きを感じる前のこまめな水分補給が基本。汗を多くかいたら塩分も少し補いましょう。

Q20. 夏の夜、草むらや水辺でおしりがやさしく光る昆虫は？

- ① ホタル
- ② テントウムシ
- ③ カブトムシ

ヒント:きれいな水辺で見られることが多い虫です。

答え:① ホタル ホタルは初夏の夜を彩る虫。きれいな水辺に育ち、光を放って仲間と知らせ合います。

Q21. 「土用」とは、もともと季節の変わり目の約何日間を指す言葉？

- ① 約18日間
- ② 約3日間
- ③ 約100日間

ヒント:立秋などの前の、季節をまたぐ期間です。

答え:① 約18日間

土用は立春・立夏・立秋・立冬の前の約18日間。夏の土用の丑の日は、この期間の丑の日を指します。

Q22. 暦の上で夏が終わり、秋が始まるとされる日を何という？

- ① 立秋
- ② 立夏
- ③ 立春

ヒント:8月初旬で、これ以降の暑さは「残暑」と呼ばれます。

答え:① 立秋 立秋は8月7日ごろ。暦の上ではここから秋とされ、以降の便りは残暑見舞いになります。

Q23. 夏の入道雲(にゅうどうぐも)を、正しくは何という？

- ① 積乱雲
- ② 巻雲
- ③ うろこ雲

ヒント:もくもくと高く発達し、夕立や雷をもたらします。

答え:① 積乱雲 入道雲の正体は積乱雲。強い上昇気流でもくもくと高く発達し、夕立や雷雨をもたらします。

Q24. 「すいか」を漢字で「西瓜」と書くのは、どこから伝わったことに由来する？

- ① 西の方から伝わったから
- ② 関西地方の名物だから
- ③ 西の空に似ているから

ヒント:シルクロードを通して、西から東へ伝わった果物です。

答え:① 西の方から伝わったから

スイカは西方から中国へ伝わったため「西瓜」と書きます。日本へは中国を経て伝わったとされます。

Q25. 「土用の丑の日にうなぎ」を広めたとされる、江戸時代の人物は？

- ① 平賀源内
- ② 徳川家康
- ③ 松尾芭蕉

ヒント:発明家・学者として知られる、多才な人物です。

答え:① 平賀源内

平賀源内が、夏に売れないうなぎ屋へ「本日丑の日」と宣伝したのが始まりとの説が有名です。

Q26. 俳句で、夏を表す「季語」はどれ？

- ① 金魚
- ② 雪だるま
- ③ 落ち葉

ヒント:涼を求めて、夏に飼ったり眺めたりする生き物です。

答え:① 金魚 金魚は夏の季語。雪だるまは冬、落ち葉は秋の季語です。季語は俳句に季節感を添える言葉です。

Q27. 「暑中見舞い」を出すのは、いつごろまでが目安？

- ① 立秋(8月7日ごろ)まで
- ② 9月末まで
- ③ 12月末まで

ヒント:暦の上で「秋」になる前までが目安です。

答え:① 立秋(8月7日ごろ)まで

暑中見舞いは立秋までが目安。立秋を過ぎたら「残暑見舞い」として出すのが昔ながらの作法です。

Q28. 打ち水で涼しくなるのは、水が蒸発するときに「○○」を奪うから。○○に入るのは？

- ① 熱
- ② 光
- ③ 音

ヒント:水が水蒸気になるとき、まわりから何を奪うでしょう。

答え:① 熱 水は蒸発するときにまわりの熱(気化熱)を奪います。この性質が打ち水で涼しく感じる理由です。

Q29. セミが土の中で幼虫として過ごす期間は、種類によってはどのくらい？

- ① 数年
- ② 数日
- ③ 数時間

ヒント:地上で過ごす成虫の期間は、ぐっと短いものです。

答え:① 数年

セミは種類により数年を土の中で過ごします。長い準備期間を経て夏に羽化し、成虫の期間は短いのです。

Q30. 「お中元」を贈る習慣は、もともと何に由来する？

- ① 中国の道教の行事
- ② 西洋のクリスマス
- ③ 江戸時代の宝くじ

ヒント: 「上元・中元・下元」のうちの一つが語源です。

答え: ① 中国の道教の行事

お中元は、中国の道教で旧暦7月15日を「中元」とした行事に由来。お世話になった方へ贈る夏の習慣です。